

[V 公共施設等の現況]

V-1 土地区画整理事業・市街地再開発事業の執行状況

[土地区画整理事業]

事業名	事業主体	施行面積	施行期間
大津湖南都市計画事業 野村土地区画整理事業	市	37.9 ha	昭和48年度～平成25年度 完了
大津湖南都市計画 中林土地区画整理事業	組合	1.5	昭和47年度～昭和49年度 完了
大津湖南都市計画 追分北部土地区画整理事業	組合	5.2	昭和49年度～昭和52年度 完了
大津湖南都市計画事業 湖南丘陵土地区画整理事業	個人	38.1	昭和55年度～平成8年度 完了
大津湖南都市計画 追分南部土地区画整理事業	組合	3.5	平成3年度～平成9年度 完了
大津湖南都市計画事業 野路東部土地区画整理事業	組合	16.7	平成4年度～平成13年度 完了
大津湖南都市計画事業 追分東部土地区画整理事業	組合	10.4	平成4年度～平成12年度 完了
大津湖南都市計画 草津中央土地区画整理事業	組合	3.4	平成7年度～平成9年度 完了
大津湖南都市計画 野路北部土地区画整理事業	組合	0.5	平成8年度～平成11年度 完了
大津湖南都市計画事業 野路西部土地区画整理事業	組合	30.5	平成11年度～平成22年度 完了
大津湖南都市計画 草津市追分丸尾 土地区画整理事業	組合	19.2	平成14年度～平成26年度 完了
大津湖南都市計画 南草津プリムタウン 土地区画整理事業	組合	32.3	平成27年度～令和5年度 完了

[市街地再開発事業]

事業名	事業主体	施行面積	施行期間
草津駅前A地区第一種 市街地再開発事業	組合	0.9 ha	昭和60年度～昭和63年度 完了
大路中央地区第一種 市街地再開発事業	組合	0.7	平成13年度～平成16年度 完了
渋川一丁目2番地区第一種 市街地再開発事業	組合	0.7	平成18年度～平成21年度 完了
北中西・栄町地区第一種 市街地再開発事業	組合	0.7	平成27年度～令和2年度 完了

V-2 消防水利の設置状況

	消火栓	防火水槽数
H19(2007)	1,830	237
H20(2008)	1,851	244
H21(2009)	1,937	299
H22(2010)	1,971	300
H23(2011)	1,992	294
H24(2012)	2,016	456
H25(2013)	2,034	456
H26(2014)	2,083	470
H27(2015)	2,094	475
H28(2016)	2,380	560
H29(2017)	2,390	565
H30(2018)	2,405	573
R1(2019)	2,416	592
R2(2020)	2,444	601
R3(2021)	2,476	605
R4(2022)	2,495	604
R5(2023)	2,514	609
<u>R6(2024)</u>	<u>2,533</u>	<u>609</u>
<u>R7(2025)</u>	<u>2,551</u>	<u>617</u>

V-3 消防力の現況（消防車両等の保有台数）

(1) 西消防署・南消防署

	ポンプ車	タンク車	はしご車	化学車	水槽車	救助車	広報連絡車	(指揮車) 指令車	査察車	救急車	無線中継車
西消防署		2					1	2	2	2	1
南消防署		2	1	1		1	1	1	2	2	

令和5年4月1日現在

(2) 草津市消防団 27.9.1「機能別消防団」発足、第8分団 27.12.20 発足

		団員定数	ポンプ車	ポンプ 小型動力 積載車	指揮(令)車	搬送車	ポンプ 小型動力
本部	本部	4			1	2	
	機能別消防団員	10					
	第1分団	30	1	1			1
	第2分団	30	1	1			1
	第3分団	30	1	1			1
	第4分団	30	1	1			1
	第5分団	30	1	1			1
	第6分団	30	1	1			1
	第7分団	30	1	1			1
	第8分団	30	1	1			1
	KFFL分団	20			1		
	計	274	8	8	2	2	8

V-4 防火地域の指定状況

本市の中心区域の一部に防火地域が指定されている。

大津湖南都市計画防火地域

区 域 大路一丁目の一部、渋川一丁目の一部

面 積 6.4 h a

[VI 危険箇所・区域、危険物施設等]

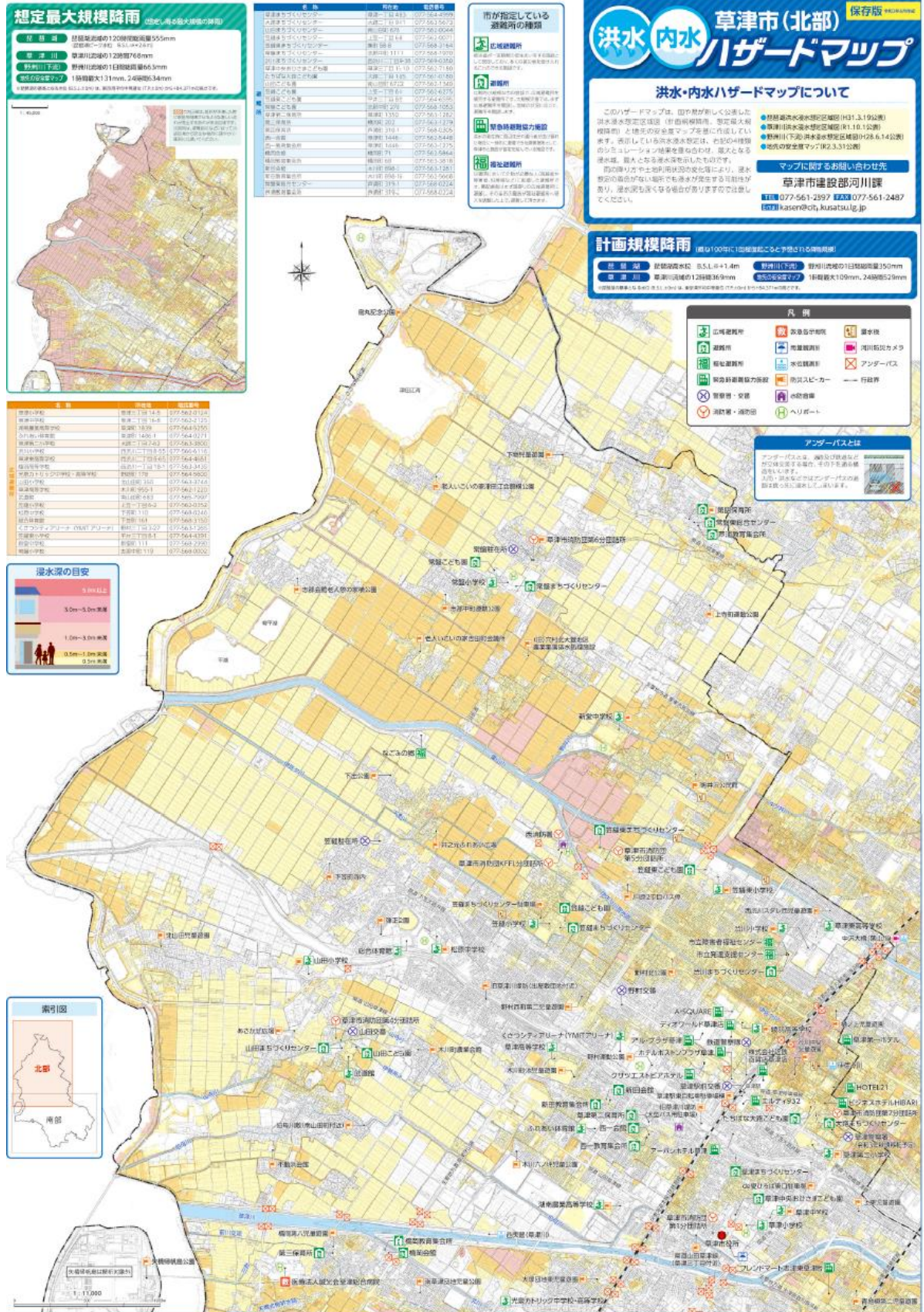
VI-1 草津市の主な風水害

発生年月日	被害内容
享和2年6月29日未刻 (1802年7月28日)	28日豪雨あり、29日まで北東の風強く、草津川が金勝川との合流点付近より長さ100mにわたって決壊、草津宿の流出・倒壊家屋287軒、行方不明者数百人、溺死者42人
嘉永元年6月6日 (1848年7月6日)	守山・草津・瀬田近在、大洪水にて大荒れ、人多く死に家流れる 葉山村出水甚だしく六地藏村にて堤防決壊川辺・目川・渋川・中沢・川原・上笠等の諸村みな浸水す
明治元年	湖面水位上昇0.94m
明治3年9月18日	草津川、馬場地区の数ヶ所で破堤
明治8年8月13日	湖面水位上昇1.36m、下物・下寺・片岡・志那・志那中・北山田で被害、田畑冠水97町歩
明治9年9月29日	湖面水位上昇0.94m、下物・下寺の田畑冠水37町歩
明治10年9月21日	湖面水位上昇1.18m、下物・下寺の田畑冠水31町歩
明治14年7月9日	湖面水位上昇1.38m、下物・下寺・志那中の田畑冠水44町歩
明治17年7月20日	湖面水位上昇2.12m
明治18年7月1日	台風、老上村倒壊家屋3戸、浸水140戸、田畑被害60町歩
明治18年7月4日	海面水位上昇2.71m、老上村14戸浸水、栗太郡で水害1547町歩、野洲郡で3008町歩が冠水、7月の豪雨で草津川破堤、さらに9月2日にも決壊
明治22年9月5日	湖面水位上昇2.00m
明治23年5月10日	湖面水位上昇1.97m
明治25年7月27日	湖面水位上昇1.14m、1732戸被害、655町歩が冠水
明治28年8月9日	湖面水位上昇2.12m
明治29年9月13日	湖面水位上昇3.73m、7月、8月、9月の大雨で県内の10,743町歩が冠水、栗太郡で死傷者2名、流失・全壊家屋192戸、家屋半壊174戸、床上浸水2225戸、床下浸水429戸、田浸水1508町歩、畑浸水145町歩、堤防決壊48箇所1351間、山田村水没
明治32年10月10日	湖面水位上昇1.45m
明治36年7月25日	湖面水位上昇1.47m
明治40年9月11日	湖面水位上昇1.28m
大正6年10月29日	湖面水位上昇1.43m
昭和3年6月17～18日	梅雨前線による大雨、伯母川出水氾濫で109戸浸水
昭和5年7月31日	水害で狼川堤防83m、伯母川で堤防93m、北川で堤防32m、草津川上流の上田上で堤防281m決壊、さらに十禅寺川で堤防105mが決壊し水田3町歩を埋没
昭和9年9月21日	室戸台風災害、山田小学校倒壊、瀬田川鉄橋で列車転覆老上小学校も一部倒壊、草津地方で死者19名、重軽傷者139名など。本台風は風台風であった
昭和13年6月～7月	豪雨で葉山川・草津川氾濫、7月4日午後6時20分頃志津村大

	字馬場小字新川原付近の草津川堤防が決壊、翌5日にも同小字付近が再び110mにわたり決壊
昭和28年7月21日	湖水上昇+65cm、200町歩冠水、山田・笠縫・常盤で被害
昭和28年9月25日	台風13号災害、栗太郡で家屋全壊3戸、半壊43戸、床上浸水641戸、床下浸水2741戸、田冠水1470町歩、道路決壊225箇所
昭和30年10月20日	台風26号災害、豪雨で草津川・大戸川・宮川・金勝川の堤防が切れ、下笠で畑が水没
昭和34年9月26日	伊勢湾台風、草津市域の河川氾濫8箇所
昭和35年7月8日	豪雨で草津川旭橋(草津1丁目)付近の左岸堤防250mに亀裂、決壊はしなかった
昭和36年6月25～29日	梅雨前線豪雨、笠縫小学校氾濫のため休校、床上浸水1戸、床下浸水306戸、水田冠水439ha、堤防決壊6箇所、被災所帯11戸、被災者数47人、湖面上昇による草津市域での浸水面積は最大で243ha
昭和36年9月16日	台風18号災害、市域での被害は死者1名、重軽傷者128名、家屋全半壊1008戸、床下浸水28戸など
昭和39年2月9日	草津川トンネル改修工事中の不手際で降雨後浸水
昭和40年7月8日	豪雨で草津地区の約50戸が床下浸水、30haが冠水
昭和40年9月17日	台風24号災害、川原地区の葉山川堤防が決壊、草津川右岸堤防も国道1号付近で長さ20m、幅2.5mにわたって削られた
昭和42年7月9日	集中豪雨、駒井沢川右岸7m、北川左岸10mにわたり決壊、30戸が床下浸水
昭和43年7月2日	豪雨により大路1丁目、草津2丁目など約380戸が床下浸水、集町の中ノ井川と駒井沢川の合流点が約3mにわたり決壊した。市域で床上浸水25戸、床下浸水825戸、河川被害56箇所、道路被害22箇所
昭和43年7月26日	局地的な集中豪雨、葉山川左岸で決壊
昭和44年6月26日	豪雨のため北大萱の中ノ井川右岸決壊、水田30haが浸水、同河川の破堤は6月11日、13日に続いて3度目である、さらに8月2日も切れ、浜街道が3ha冠水した
昭和45年6月14～16日	豪雨で中ノ井川氾濫、北大萱付近で右岸堤防が長さ10mにわたり決壊、田畑約12ha浸水、さらに同河川右岸が約7mにわたり決壊、水田30haが冠水
昭和46年9月26日	台風29号災害、草津川旭端付近で水位1.5m、130戸が床下浸水、430名被災
昭和47年7月12～13日	豪雨で北川堤防が13日午後5時頃決壊、河川52箇所、道路24箇所、橋4箇所が被害
平成25年9月15～16日	台風18号災害、16日午前5時5分大雨特別警報を滋賀県に発令、土砂崩れ、土砂流入、護岸損傷 計53箇所

出典：平成7年度草津市震災対策基本計画基礎調査報告書、草津市、草津市史第I巻～第V巻(1982～1990)、草津市史編纂委員会、滋賀県災害誌(1966)、滋賀県総務部消防防災課・彦根地方気象台編集

VI-2 草津市洪水・内水ハザードマップ



VI-3 市内の主要河川現況

1 一級河川

河川名	指定年月日	区 間		延長 (単位m)
		上 流 端	下流端	
堺川	S30. 3. 27	左岸 守山市大門町字迎出54-1 右岸 守山市大門町字吉上120	琵琶湖への 流 入 点	3,520
中ノ井川	S40. 3. 24	左岸 栗東市大字林字上野浦91 右岸 栗東市大字林字大塚222	<u>葉山川への 合 流 点</u>	<u>8,860</u>
駒井川	S40. 3. 24	左岸 草津市集町字頭ヶ坪86 右岸 草津市北大萱町字中島85	<u>中ノ井川へ の合流点</u>	1,870
葉山川	S40. 3. 24	左岸 栗東市大字六地藏字鈎里山160 右岸 栗東市大字六地藏字奥山田200	琵琶湖への 流 入 点	11,600
天満川	S41. 3. 28	左岸 草津市上笠町字四反長32 右岸 草津市上笠町字九反田791	<u>伊佐々川へ の合流点</u>	<u>2,200</u>
<u>伊佐々川 放水路</u>	<u>S60. 4. 6</u>	<u>伊佐々川からの分派点</u>	<u>葉山川への 合 流 点</u>	<u>1,100</u>
伊佐々川	S40. 3. 24	左岸 栗東市大字岡字高井21 右岸 栗東市大字岡字高井20	琵琶湖への 流 入 点	8,100
草津川	S40. 3. 24	<u>大津市上田上桐生町国有林地先の オランダ堰堤</u>	琵琶湖への 流 入 点	<u>11,270</u>
美濃郷川	S40. 3. 24	左岸 栗東市大字荒張字長野1075 右岸 栗東市大字荒張字長野1073-1	<u>草津川への 合 流 点</u>	2,200
菖蒲谷川	S40. 3. 24	左岸 草津市馬場町字小網谷23 右岸 草津市山寺町字南山834	<u>美濃郷川へ の合流点</u>	880
山寺川	S44. 3. 20	左岸 草津市木川町字上定木351 右岸 草津市木川町字高木415	琵琶湖への 流 入 点	3,000
伯母川	S40. 3. 24	<u>大津市上田上桐生町字西谷の防災調節池</u>	<u>草津川への 合 流 点</u>	<u>4,200</u>
北川	S40. 3. 24	左岸 <u>草津市野路町字東浦1697-1</u> 右岸 <u>草津市東矢倉二丁目字中池580-72</u>	<u>草津川への 合 流 点</u>	<u>2,200</u>
前川	S45. 4. 20	左岸 草津市野路町字横街道12-2 右岸 草津市野路町字牛の町368-2	琵琶湖への 流 入 点	2,000
十禅寺川	S40. 3. 24	左岸 <u>草津市野路町字仮又2146-1</u> 右岸 草津市野路町字中山田1742	琵琶湖への 流 入 点	3,730
狼川	S40. 3. 24	左岸 草津市南笠町字新池97-1 右岸 草津市野路町字御林山2301-5	琵琶湖への 流 入 点	5,600

2 準用河川(河川法第100条第1項)

河川名	指定年月日	区 間		延長 (単位m)	川幅 (単位m)
		上 流 端	下 流 端		
前川支流	S50. 1. 22	左岸 草津市矢橋町 字八六1813-1地先 右岸 草津市矢橋町 字位野1811-1地先	琵琶湖への流入点	590	3
矢橋北側 排水路	S50. 1. 22	左岸 草津市矢橋町 字五丁目1497-2地先 右岸 草津市矢橋町 字五丁目1499地先	琵琶湖への流入点	720	1
門ノ川	S50. 1. 22	左岸 草津市矢橋町 字城前町1162地先 右岸 草津市矢橋町 字城前町1163地先	左岸 草津市矢橋町 字城前町1154-2地先 右岸 草津市矢橋町 字城前町1165地先	94	1
伊勢所川	S57. 6. 19	左岸 草津市木川町 字長池192地先 右岸 草津市木川町 字野々上288地先 <u>(山寺川からの分派点)</u>	左岸草津市南山田町 字鬼塚676地先 右岸草津市北山田町 字伊勢所13-1地先 <u>(山寺川への合流点)</u>	840	5
殿田川	H7. 7. 17	左岸 大津市大萱七丁目 字北尻川3169の2地先 右岸 草津市新浜町 字釜谷ノ内366の3地先	琵琶湖への流入点	※350 大津とまたがるため1/2	7

VI-4 主要河川の水位段階

番号	河川名	河川区分	水位観測所	水防団待機水位 (通報水位)	はん濫注意水位 (警戒水位)	避難判断水位 (特別警戒水位)	はん濫危険水位 (危険水位)	計画高水位	対象区域	備考
1	草津川 (放水路)	水位情報 周知河川	西矢倉	2.3 m	3.1 m	3.4 m	4.3 m	4.57 m	矢倉学区、老上 学区、山田学区 (御倉町、南山 町、矢橋町、西 矢倉二丁目)	暫定値
2	草津川 (放水路)		山寺橋	0.55 m	1.3 m			2.6 m	志津学区、草津 学区(草津川以 南)	暫定値
3	金勝川		目川	1.2 m	2.6 m				草津第二学区、 渋川学区、笠縫 学区、笠縫東学 区(葉山川以南)	

VI-5 重要水門・樋門調書

番号	河川名	名称	所在	管理者	操作担当者	操作基準	構造	w×h×n	摘要
								断面×数	
1	山寺川	樋頭樋門	木川町	木川町出屋敷	同左生産組合	洪水時堰板除去	鋼製ローラーゲート	3.8×2.15×1	
2	山寺川	水通樋	木川町	木川町	〃	洪水時堰板除去	鋼製ローラーゲート	1.8×1.20×1	
3	山寺川	久治田樋門	木川町	木川町	〃	洪水時堰板除去	石造、角落とし	1.2×1.0×1	
4	山寺川	山寺井堰	山田町	山田町	〃	洪水時解扉	鋼製スルースゲート	4.8×1.6×1	
5	伊佐々川	上田井	渋川一丁目	渋川町	〃	洪水時堰板除去	コンクリート角落とし	2.0×2.0×1	
6	伊佐々川	墓無樋門	上笠一丁目	上笠町	〃	洪水時自動解放	鋼製スルースゲート	5.1×1.8×1	
7	伊佐々川	福井樋門	下笠町	下笠町	〃	洪水時堰板除去	鋼製スルースゲート	6.5×1.3×1	洪水時自動解放
8	前川	矢橋樋門	矢橋町	矢橋町	〃	洪水時自動解放	鋼製スルースゲート	2.0×1.0×1	
9	前川	矢橋樋門	矢橋町	矢橋町	〃	洪水時自動解放	鋼製スルースゲート	2.1×1.0×1	
10	伯母川	三ツ池樋門	西矢倉一丁目	三ツ池水利組合	〃	洪水時開扉	木製スルースゲート	3.5×3.5×2	
11	天満川	四反長女樋門	野村五丁目	上笠町	〃	洪水時堰板除去	コンクリート角落とし	1.5×1.5×1	
12	天満川	高道樋門	上笠一丁目	上笠町	〃	洪水時開扉	鋼製スルースゲート	2.1×1.7×1	
13	天満川	上笠樋門	上笠一丁目	上笠町	〃	洪水時自動解放	鋼製スルースゲート	3.6×0.9×1	
14	駒井川	駒井小駒	駒井沢町	駒井沢町	〃	洪水時自動解放	鋼製スルースゲート	3.5×2.0×1	
15	駒井川	新堂用水	新堂町	新堂町	〃	洪水時堰板除去	コンクリート角落とし	4.5×1.8×1	
16	駒井川	駒井川一本木堰用水	北大萱町	北大萱町	〃	洪水時自動解放	ファブリゲート	3.0×2.0×1	
17	中ノ井川	中ノ井川大樋	駒井沢町	駒井沢町	〃	洪水時自動転倒	ファブリゲート	6.4×2.3×1	
18	中ノ井川	中ノ井川奥前樋門	集町	集町	〃	洪水時自動転倒	自動転倒ゲート	6.0×2.0×1	
19	中ノ井川	第二井堰	集町	集町	〃	洪水時自動転倒	自動転倒ゲート	6.0×2.0×1	
20	太田川	北大萱樋門	北大萱町	北大萱町	〃	洪水時堰板除去	コンクリート角落とし	5.0×0.9×1	
21	太田川	志那樋門	志那町	志那町	〃	洪水時自動解放	鋼製スルースゲート	7.5×1.3×1	4号
22	乙川	志那中樋門	志那中町	志那中町	〃	洪水時自動解放	鋼製スルースゲート	5.5×1.2×1	幹排
23	中村川	芦浦樋門	芦浦町	芦浦町	〃	洪水時堰板除去	コンクリート角落とし	1.5×0.6×1	
24	中村川	片岡樋門	片岡町	志那中町	〃	洪水時自動転倒	自動転倒ゲート	1.6×1.3×1	6号
25	下寺川	下寺樋門	下寺町	下寺町	〃	洪水時自動解放	鋼製スルースゲート	4.2×1.4×1	7号
26	6号幹排	津田江樋門	下寺町	津田江町	〃	洪水時転倒	自動転倒ゲート	3.0×1.8×1	
27	6号幹排	津田江樋門	下寺町	津田江町	〃	洪水時堰板除去	コンクリート角落とし	3.0×1.0×1	
28	境川	芦浦樋門	芦浦町	芦浦町	〃	洪水時堰板除去	石造、角落とし	1.5×1.0×1	
29	郡上川	西草津樋門	西草津一丁目	西草津	〃	洪水時堰板除去	コンクリート角落とし	1.4×0.7×1	
30	土寄川	川原樋門	川原町	川原町	〃	洪水時堰板除去	コンクリート角落とし	2.0×1.7×1	
31	伊佐々川	下笠樋門	下笠町	下笠町	〃	洪水時開扉	鋼製スルースゲート	8.5×1.0×1	

VI-6 農業用ため池一覧

	名称	所在地	管理者	堤高 (m)	堤長 (m)	貯水量 (m3)	洪水吐	堤体	堤体形式	築造年代	形態配置	受益戸数 (※)	受益面積 (※)	取水施設	利用状況	多目的利用	環境	備考
1	野池	西矢倉一丁目 1440	三ツ池水利組合	5	650	66000	3	2	1	2	2	139	115.7	1	1	3	3	
2	頓蓮池	西矢倉一丁目 1442	三ツ池水利組合	3	750	34000	3	2	2	2	3	139	115.7	1	1	3	2	
3	新浜深池	新浜町 9	新浜町財産区	2.2	460	13600	3	2	2	2	1	38	6.1	1	1	1	1	
4	弁天池	南笠東一丁目 537	南笠生産組合	2.8	600	42800	3	2	1	2	1	15	3.3	1	1	1	1	
5	仮又池	野路八丁目 2146-1	野路町財産区	1.3	460	20000	3	2	2	2	1	10	1.5	1	1	1	1	
6	下池	東矢倉三丁目 354、357	草津市	2	220	92400	3	2	2	2	2	8	1.0	1	1	1	3	総務課 財産管理係
7	中池	東矢倉三丁目 358-1	草津市	3.8	140	3960	2	2	2	2	3	8	1.0	1	1	1	3	総務課 財産管理係
8	中池	青地町 1072	青地町財産区	3.5	100	4140	3	2	2	2	1	7	0.6	1	1	1	3	
9	城池	青地町 824-1	青地町財産区	2.4	60	15100	3	2	2	2	1	11	2.3	1	1	3	1	
10	奥池	馬場町 196	馬場町財産区	1.6	50	10000	3	2	1	2	1	47	23.5	1	1	1	2	
11	砂池	木川町 956	出屋敷生産組合	2	390	9200	3	2	2	2	1	21	3.1	1	1	3	3	
12	菰池	追分六丁目 606	追分町地水利組合	4	220	32900	3	2	2	2	1	19	1.7	1	1	1	3	
13	青葉池	岡本町 467	岡本町内会	1.6	30	5600	3	2	2	2	1	139	27.5	1	1	1	3	
14	追分池	追分南八丁目 1013-1	個人	7.6	50	18200	3	2	2	2	1	10	0	0	-	1	3	
15	新池	追分南五丁目 964-1	個人	2.8	20	900	3	2	2	2	1	40	0	0	-	1	3	

※ 変動が著しく、現状と異なる場合あり

洪水吐	<ol style="list-style-type: none"> 1 破堤により補修の必要有り 2 洪水吐なし 3 その他(通常の維持管理で対応できる) 	形態配置	<ol style="list-style-type: none"> 1 単独で受益をもつため池 2 複数で受益をもつうち主たるため池 3 複数で受益をもつうち補助的なため池 	取水施設	<ol style="list-style-type: none"> 1 通常の維持管理で対応できる 2 その他
堤体	<ol style="list-style-type: none"> 1 補修の必要有り 2 その他(通常の維持管理で対応できる) 	利用状況	<ol style="list-style-type: none"> 1 主として農業用水として利用している 2 主として用水以外として利用している(農業用水も利用) 	環境	<ol style="list-style-type: none"> 1 周辺住民の憩いの場 2 動植物の希少種が生息 3 その他(周辺環境に特に悪影響はない)
堤体形式	<ol style="list-style-type: none"> 1 アースダム(傾斜コア型) 2 アースダム(均一型) 	多目的利用	<ol style="list-style-type: none"> 1 洪水調整 2 公園利用 3 その他 		
築造年代	<ol style="list-style-type: none"> 1 江戸時代以前 2 不明 				

VI-7 重要水防区域および危険箇所

河川名	要水防区域		重要水防区域		特に重要な水防区域		左の理由	防御すべき施設	対策水防工法
	区域	延長	区域	延長	区域	延長			
狼川	JR琵琶湖線から県道平野草津線まで	3,000m	培坂川合流点から県道平野草津線まで	2,250m	JR琵琶湖線から培坂川合流点まで	750m	天井川、護岸老朽、河川狭小、洗掘		
十禅寺川	JR琵琶湖線から始点まで	1,400m	同左	1,400m			天井川、護岸老朽、河川狭小		
前川	県道大津草津線より上流200m下流500m	1,400m							
北川	JR琵琶湖線より始点まで	700m							
伯母川	東海道新幹線から名神高速道路まで	2,400m							
草津川	左岸 草津市矢橋町から草津市橋岡町まで	400m							
	左岸 草津市御倉町から草津市西矢倉三丁目まで	800m							
	右岸 草津市御倉町から草津市西矢倉一丁目まで	2,200m							
	左岸 草津市青地町より上流3,200m 草津市山寺町より上流3,000m	6,200m	同左	6,200m	同左	6,200m	天井川、護岸老朽	人家200戸 市道3,000m	積土俵工 木流し工
中ノ井川	葉山川合流点より上流1,800m	3,600m	葉山川合流点より上流1,200m	2,400m					
駒井川	中ノ井川合流点より上流1,300m	2,600m							
伊佐々川	草津市野村町上流700mより下流1,400m	2,800m							
山寺川	県道大津守山近江八幡線より上流900m	1,800m							
菖蒲谷川	起点より下流350m	700m							

VI-8 草津市役所より 100km 圏内で発生した過去の被害地震一覧

参考：新編日本被害地震総覧(増補改訂版), 1997 年, 東京大学出版会

番号	西暦	日本暦	北緯 東経	M	深さ	地域	被害摘要	地震名
1	599 5 28	推古 7 4 27	-	7.0	-	大和	倒潰家屋を生じた。「日本書紀」にあり。地震による被害の記述としてはわが国最古のもの。	-
2	745 6 5	天平 17 4 27	35.4° N 136.5° E	7.9	-	美濃	櫓館・正倉・仏寺・堂塔・民家が多く倒潰し、摂津では余震が20日間止まなかった。	-
3	827 8 11	天長 4 7 12	35.0° N 135.75° E	6.5~7	-	京都	舎屋多く潰れ、余震が翌年6月まであった。	-
4	856 - -	斉衡 3 3 -	-	6~6.5	-	京都	京都およびその南方で屋舎が破壊し、仏塔が傾いた。	-
5	881 1 13	元慶 4 12 6	-	6.4	-	京都	宮城の垣牆・官庁・民家の類損するものはなはだ多く、余震が翌年まで続いた。	-
6	890 7 10	寛平 2 6 16	-	6.0	-	京都	家屋傾き、ほとんど倒潰寸前のものがあった。	-
7	934 7 16	承平 4 5 27	-	6.0	-	京都	午刻に地震2回、京中の築垣が多く転倒した。	-
8	938 5 22	天慶 1 4 15	35.0° N 135.8° E	7.0	-	京都・紀伊	宮中の内膳司類れ、死4、舎屋・築垣倒れるもの多く、堂塔・仏像も多く倒れる。高野山の諸伽藍破壊。余震多く、8月6日に強震があった。	-
9	976 7 22	貞元 1 6 18	34.9° N 135.8° E	≥6.7	-	山城・近江	両京で屋舎・諸仏寺の転倒多く、死50以上。近江の国府・国分寺・関寺(大津市)で被害。余震が多かった。	-
10	1038 - -	長暦 1 12 -	34.3° N 135.6° E	-	-	紀伊	高野山中の伽藍・院宇に転倒するもの多かった。	-
11	1041 8 25	長久 2 7 20	-	-	-	京都	法成寺の鐘楼が転倒した。	-
12	1070 12 1	延久 2 10 20	34.8° N 135.8° E	6~6.5	-	山城・大和	東大寺の巨鐘の鈕が切れて落ちた。京都では家々の築垣に被害があった。	-
13	1091 9 28	寛治 5 8 7	34.7° N 135.8° E	6.2~6.5	-	山城・大和	法成寺の仏像倒れ、その他の建物・仏像にも被害。大和国金峯山金剛蔵王宝殿が破壊した。	-
14	1093 3 19	寛治 7 2 14	-	6~6.3	-	京都	所々の塔が破壊した。	-
15	1099 2 22	康和 1 1 24	-	8~8.3	-	南海道・畿内	興福寺・摂津天王寺で被害。土佐で田千余町みな海に沈む。津波があったらしい。	-
16	1177 11 26	治承 1 10 27	34.7° N 135.8° E	6~6.5	-	大和	東大寺で巨鐘が落ちるなどの被害。京都でも地震が強かった。	-

番号	西暦	日本暦	北緯 東経	M	深さ	地域	被害摘要	地震名
17	1185 8 13	文治 1 7 9	35.0° N 135.8° E	7.4	-	近江・山城・大和	京都、特に白河辺の被害が大きかった。社寺・家屋の倒潰破壊多く死多数。宇治橋落ち、死1。9月まで余震多く、特に8月12日の強い余震では多少の被害があった。	-
18	1245 8 27	寛元 3 7 27	-	-	-	京都	壁・築垣や所々の屋々に破損が多かった。	-
19	1317 2 24	文保 1 1 5	35.0° N 135.8° E	6.5~7	-	京都	これより先1月3日京都に強震、余震多く、この日大地震。白河辺の人家悉く潰れ、死5。諸寺に被害、清水寺出火。余震が5月になっても止まなかった。	-
20	1325 12 5	正中 2 10 21	35.6° N 136.1° E	6.5	-	近江北部・若狭	荒地・中山崩れる。竹生島の一部が崩れて湖中に没した。若狭国敦賀郡の気比神宮倒潰。京都で強く感じ、余震が年末まで続いた。	-
21	1350 7 6	正平 5 5 23	35.0° N 135.8° E	6.0	-	京都	祇園社の石塔の九輪が落ち砕けた。余震が7月初旬まで続いた。	-
22	1361 8 1	正平 16 6 22	-	-	-	畿内諸国	この月18日より京都付近に地震多く、この日の地震で法隆寺の築地多少崩れる。23日にも地震あり。次の地震の前震か？	-
23	1369 9 7	正平 24 7 28	-	-	-	京都	東寺の講堂傾く。史料少なく、λ、φ、Mは決めにくい。	-
24	1425 12 23	応永 32 11 5	35.0° N 135.8° E	6.0	-	京都	築垣多く崩れる。余震あり、この日終日震う。	-
25	1449 5 13	宝徳 1 4 12	35.0° N 135.75° E	5.75~6.5	-	山城・大和	10日から地震があった。洛中の堂塔・築地に被害多く、東山・西山で所々地裂ける。山崩れで人馬の死多数。淀大橋・桂橋落ちる。余震が7月まで続いた。	-
26	1466 5 29	文正 1 4 6	-	-	-	京都	天満社・糺社の灯籠倒れる。	-
27	1494 6 19	明応 3 5 7	34.6° N 135.7° E	6.0	-	大和	諸寺破損、矢田庄(大和郡山の西)の民家多く破損。余震が翌年に及んだ。	-
28	1510 9 21	永正 7 8 8	34.6° N 135.6° E	6.5~7	-	摂津・河内	摂津・河内の諸寺で被害。大阪で潰死者があった。余震が70余日続く。	-
29	1579 2 25	天正 7 1 20	34.7° N 135.5° E	6.0	-	摂津	四天王寺の鳥居崩れ、余震3日にわたる。	-

番号	西暦	日本暦	北緯 東経	M	深さ	地域	被害摘要	地震名
30	1596 9 5	慶長 1 閏7 13	34.65° N 135.6° E	7.5	-	畿内	京都では三条より伏見の間で被害が最も多く、伏見城天守大破、石垣崩れて圧死約500。諸寺・民家の倒潰も多く、死傷多数。堺で死600余。奈良・大阪・神戸でも被害が多かった。余震が翌年4月まで続いた。	-
31	1618 9 30	元和 4 8 12	-	-	-	京都	不動院大破する。『京都府寺誌稿』による。	-
32	1662 6 16	寛文 2 5 1	35.2° N 135.95° E	7.5~7.75	-	山城・大和・河内・和泉・摂津・丹後・若狭・近江・美濃・伊勢・駿河・三河・信濃	比良岳付近の被害が甚大。滋賀唐崎で田畑85町湖中に没し潰家1570、大溝で潰家1020余、死37。彦根で潰家1千、死30余。榎村で死300、所川村で死260余。京都で町屋倒壊1千、死200余など。諸所の城破損、大きな内陸地震で、比良断層または花折断層の活動とする説がある。	-
33	1664 1 4	寛文 3 12 6	-	5.9	-	山城	二条城や伏見の諸邸破損、洛中の築垣所々崩れる。吉田神社・下加茂社の石灯籠倒れる。余震が月末まで続いた。	-
34	1665 6 25	寛文 5 5 12	-	6.0	-	京都	二条城の石垣12~13間崩れ、二の丸殿舎など少々破損。	-
35	1669 6 29	寛文 9 6 2	-	5.9	-	尾張	名古屋城三ノ丸石垣少し崩る。京都・奈良・和歌山で有感。	-
36	1694 12 12	元禄 7 10 26	-	-	-	丹後	宮津で地割れで泥噴出。家屋破損、特に土蔵は大破損。	-
37	1715 2 2	正徳 4 12 28	35.4° N 136.6° E	6.8	-	大垣・名古屋・福井	大垣城・名古屋城で石垣崩れる。福井で崩家があり、奈良・京都・伊賀上野・松本で有感。	-
38	1731 11 13	享保 16 10 14	-	-	-	近江八幡・刈谷	近江八幡で青屋橋の石垣破損し、刈谷で本城厩前の塀倒れる。	-
39	1740 7 20	元文 5 6 27	-	-	-	奈良・畿内	奈良で鳥居1つ倒る。池田・伊勢・京都・近江八幡・土佐で有感。和泉国助松村で土手かべ多く痛む。	-
40	1751 3 26	宝暦 1 2 29	35.0° N 135.8° E	5.8	-	京都	諸社寺の築地や町屋など破損。越中で強く感じ、鳥取・金沢・大阪・池田で有感。	-
41	1753 2 11	宝暦 3 1 9	-	-	-	京都	洛中の築地等に小被害。池田・伊勢・鳥取で有感。	-
42	1774 1 22	安永 2 12 11	-	-	-	丹後	屋根石多く落ちる。京都・池田で有感。	-

番号	西暦	日本暦	北緯 東経	M	深さ	地域	被害摘要	地震名
43	1802 11 18	享和 2 10 23	35.2° N 136.5° E	6.8	-	畿内・名古屋	奈良春日の石灯籠かなり倒れ、名古屋で本町御門西の土居の松倒れ、高壁崩れる。彦根・京都で有感。やや深い地震か？	-
44	1819 8 2	文政 2 6 12	35.2° N 136.3° E	7.3	-	伊勢・美濃・近江	近江八幡で潰家 82、死 5。木曾川下流では香取(多度町)で 40 軒全滅、金廻では海寿寺潰れ圧死 70。名古屋・犬山・四日市・京都などのほか、金沢・敦賀・出石・大和郡山などでも被害。	-
45	1830 8 19	天保 1 7 2	35.1° N 135.6° E	6.5	-	京都および隣国	洛中洛外の土蔵はほとんど被害を受けたが、民家の倒潰はほとんどなかった。御所・二条城などで被害。京都での死 280。上下動が強く、余震が非常に多かった。	-
46	1833 5 27	天保 4 4 9	35.5° N 136.6° E	6.3	-	美濃西部	大垣北方の村々で山崩れ多く、死者 30 余という。余震が多く、8 月まで続く。震源は根尾谷断層に近い。	-
47	1854 7 9	安政 1 6 15	34.75° N 136.0° E	7.3	-	伊賀・伊勢・大和 および隣国	12 日頃から前震があった。上野付近で潰家 2 千余、死約 600、奈良で潰家 400 以上、死 300 余など、全体で死者は 1500 を越える。上野の北方で西南西-東北東方向の断層を生じ、南側の 1km の地域が最大 1.5m 相対的に沈下した。木津川断層の活動であろう。	-
48	1858 4 9	安政 5 2 26	-	-	-	丹後・宮津	宮津では地割れを生じ、家屋大破す。岩ヶ鼻(丹後半島の伊根付近)で蔵の壁痛み、岩瀧辺も強かった。	-
49	1889 5 12	明治 22	35.4° N 136.8° E	5.9	-	岐阜付近	美濃南部・尾張北部が強くゆれ、家屋の壁に亀裂を生ず。岐阜市内の長良川の堤に亀裂を生ず。	-
50	1891 10 28	明治 24	35.6° N 136.6° E	8.0	-	愛知県・岐阜県	仙台以南の全国で地震を感じた。わが国の内陸地震としては最大のもの。建物全壊 14 万余、半壊 8 万余、死 7273、山崩れ 1 万余。根尾谷を通る大断層を生じ、水鳥で上下に 6m、水平に 2m ずれた。1892 年 1 月 3 日、9 月 7 日、94 年 1 月 10 日の余震でも家屋破損などの被害があった。	濃尾地震
51	1898 11 13	明治 31	35.3° N 136.7° E	5.7	-	木曾川中流域	濃尾地震の余震。愛知県葉栗郡太田島村で家屋の傾斜、土蔵壁の亀裂・墜落などがあった。その他黒田町・中島郡稲沢町・大垣町(河水が灰白色となり、石灯籠の転倒多し)・伊勢の沿岸で小被害あり。	-

番号	西暦	日本暦	北緯 東経	M	深さ	地域	被害摘要	地震名
52	1899 3 7	明治 32	34.1° N 136.1° E	7.0	-	紀伊半島南東部	奈良県吉野郡・三重県南牟婁郡で被害が大きく、木ノ本・尾鷲で死 7、全壊 35、山崩れ無数。大阪・奈良で煉瓦煙突の破損が多かった。	-
53	1900 3 22	明治 33	35.8° N 136.2° E	5.8	-	福井県鯖江付近	鯖江町・吉田村で被害が最も多かった。県全体で家屋全壊 2、半壊 10、破損 488 など。	-
54	1900 5 31	明治 33	35.7° N 136.6° E	5.3	-	岐阜県根尾谷付近	中根尾村でところどころ山崩れ。	-
55	1903 7 6	明治 36	35.0° N 136.5° E	5.7	-	三重県菰野付近	菰野で警察の壁、その他家屋に小破損あり。	-
56	1909 8 14	明治 42	35.4° N 136.3° E	6.8	-	滋賀県姉川付近	虎姫付近で被害が最大。滋賀・岐阜両県で死 41、住家全壊 978。姉川河口の湖底が数十 m 深くなった。	江濃(姉川)地震
57	1911 2 18	明治 44	35.4° N 136.3° E	5.5	-	滋賀県姉川付近	虎姫村で障壁に亀裂。姉川地震の余震か？	-
58	1916 11 26	大正 5	34.6° N 135.0° E	6.1	-	神戸	死 1。付近に軽い被害があった。有馬温泉の泉温 1℃上がる。	-
59	1925 7 7	大正 14	35.4° N 136.5° E	5.8	-	岐阜付近	四日市で煙突の倒れたもの、塀の壊れたものあり。	-
60	1927 3 7	昭和 2	35.5° N 135.2° E	7.3	0	京都府北西部	被害は丹後半島の頸部が最も激しく、淡路・福井・岡山・米子・徳島・三重・香川・大阪に及ぶ。全体で死 2925、家屋全壊 12584。郷村断層(長さ 18km、水平ずれ最大 2.7m)とそれに直交する山田断層(長さ 7km)を生じた。測量により、地震に伴った地殻の変形が明らかになった。	北丹後地震
61	1936 2 21	昭和 11	34.6° N 135.7° E	6.4	0	大阪・奈良	死 9、家屋全半壊 148。地面の亀裂や噴砂・湧水現象も見られた。	河内大和地震
62	1952 7 18	昭和 27	34.5° N 135.8° E	6.8	60	奈良県中部	震源の深さ 60km、和歌山・愛知・岐阜・石川各県にも小被害があった。死 9、住宅全壊 20。春日大社の石灯籠 1600 のうち 650 倒壊。	吉野地震
63	1963 3 27	昭和 38	35.8° N 135.8° E	6.9	0	福井県沖	敦賀・小浜間に小被害があった。住家全半壊 6 など。	越前岬沖地震
64	1968 8 18	昭和 43	35.2° N 135.4° E	5.6	0	京都府中部	綾部市で住家半壊 1、一部破損 1、和知町周辺で落石・道路の亀裂などの小被害。余震回数は表 584-1 のとおり。	-
65	1990 1 11	平成 2	35.1° N 135.9° E	4.9	11	滋賀県南部	大震度は IV(奈良)、東海道新幹線が一時ストップし、京都でビルの窓ガラスが割れた。	-

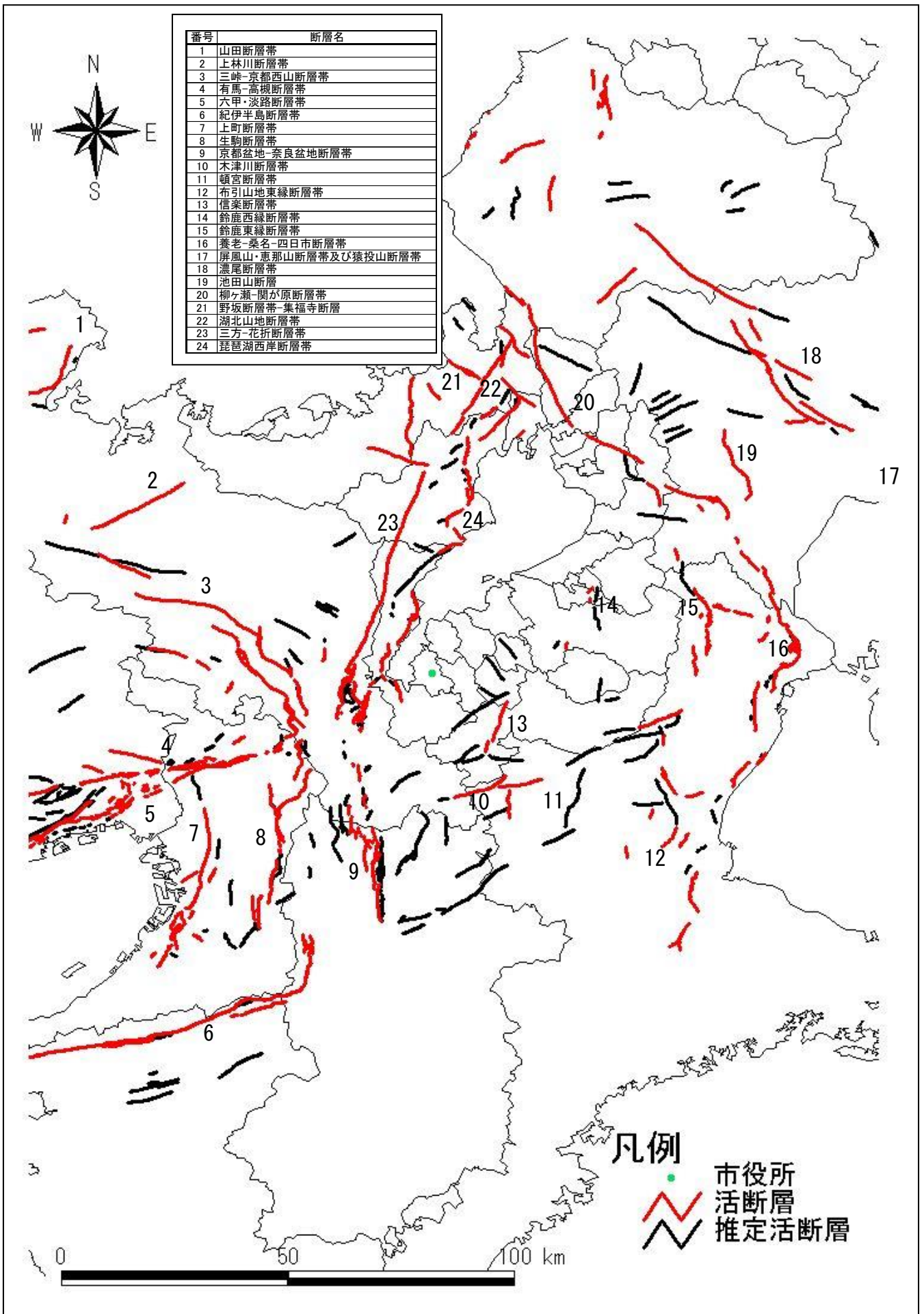
番号	西暦	日本暦	北緯 東経	M	深さ	地域	被害摘要	地震名
66	1994 5 28	平成 6	35.3° N 136.3° E	5.2	44.1	滋賀県中東部	傷 1、最大震度は彦根・四日市で IV であるが、通信調査によると、彦根市南部・野洲川河口付近、日野町にも震度 IV がある。 図 696-1	-
67	1995 1 17	平成 7	34.6° N 135.1° E	7.2	17.9	阪神・淡路	活断層の活動によるいわゆる直下型地震。神戸、洲本で震度 6 だったが、現地調査により淡路島の一部から神戸市、宝塚市にかけて震度 7 の地域のあることが明らかになった。多くの木造家屋、コンクリートの建物のほか、高速道路, 新幹線を含む鉄道線路なども崩壊した。	平成 7 年兵庫 県南部地震： 阪神・淡路大 震災

VI-9 草津市周辺の活断層の長期評価一覧

参考：地震調査研究推進本部ホームページ

番号	断層名	長期評価で 予想された 地震規模 (マグニチュード)	地震発生確率			我が国の主 な活断層に おける相対 的評価	平均活動間隔	
			30年 以内	50年 以内	100年 以内		最新活動時期	
1	山田断層帯 (山田断層帯主部)	7.4程度	不明	不明	不明	やや高い	不明	
	(郷村断層帯)	7.4程度 もしくはそれ以上	ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	やや高い	約3.3千年前 約1万-1.5万年 1927年北丹後地震	
2	上林川断層帯	7.2程度	不明	不明	不明	やや高い	不明	
3	三峠-京都西山断層帯 (三峠断層)	7.2程度	ほぼ0.4 ~0.6%	0.7~1%	1~2%	やや高い	5-7千年程度 3世紀以前	
	(京都西山断層帯)	7.5程度	ほぼ0~ 0.8%	ほぼ0~ 1%	ほぼ0~ 3%	やや高い	約3.5-5.6千年 約2.4銭年前-2世紀	
4	有馬-高槻断層帯	7.5程度 (7.5±0.5)	ほぼ0~ 0.02%	ほぼ0~ 0.05%	ほぼ0~ 0.3%	やや高い	1-2千年程度 1596年慶長伏見地震	
5	六甲・淡路断層帯 (主部/六甲山地南縁-淡路島東岸区域)	7.9程度	ほぼ0~ 0.9%	ほぼ0~ 2%	ほぼ0~ 5%	やや高い	9百-2.8千年程度 16世紀	
	(主部/淡路島西岸区間)	7.1程度	ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	やや高い	1.8-2.5千年程度 兵庫県南部地震	
	(先山断層帯)	6.6程度	ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	やや高い	5千-1万年程度 11-17世紀初頭	
6	中央構造線断層帯 (和泉山脈南縁-金剛山地東縁)	8.0程度	ほぼ0~ 5%	ほぼ0~ 9%	ほぼ0~ 20%	高い	約2千-1.2万年 1-4世紀	
7	上町断層帯	7.5程度	2~3%	3~5%	6~10%	高い	8千年程度 約2.8-9千年前	
8	生駒断層帯	7.0~7.5程 度	ほぼ0~ 0.1%	ほぼ0~ 0.2%	ほぼ0~ 0.6%	やや高い	3-6千年 1.6-1千年前頃	
9	京都盆地-奈良盆地断層帯 (奈良盆地東縁断層帯)	7.4程度	ほぼ0~ 5%	ほぼ0~ 7%	ほぼ0~ 10%	高い	約5千年 約1.1万-1.2千年前	
10	木津川断層帯	7.3程度	ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	やや高い	約4千-2.5万年 1854年伊賀上野地震	
11	頓宮断層帯	7.3程度	1%以下	2%以下	4%以下	やや高い	約1万年以上 約1万年前-7世紀	
12	布引山地東縁断層帯 (東部)	7.6程度	0.001%	0.002%	0.005%	やや高い	2.5万年程度 1.1万年頃	
	(西部)	7.4程度	ほぼ0~ 1%	ほぼ0~ 2%	ほぼ0~ 4%	やや高い	1.7万年程度 約2.8万-4百年	
13	信楽断層帯	主要98活断層帯以外の活断層						
14	鈴鹿西縁断層帯	7.6程度	0.08~ 0.2%	0.1~0.3%	0.3~0.6%	やや高い	約1.8-3.6万年 特定できない	
15	鈴鹿東縁断層帯	7.5程度	0.5%以下	0.8%以下	2%以下	やや高い	6千年以上 十分特定できない	
16	養老-桑名-四日市断層帯	8程度	ほぼ0~ 0.6%	ほぼ0~ 1%	ほぼ0~ 3%	やや高い	1.4-1.9千年	
							13-16世紀	

番号	断層名	長期評価で 予想された 地震規模 (マグニチュー ド)	地震発生確率			我が国の主 な活断層に おける相対 的評価	平均活動間隔
			30年 以内	50年 以内	100年 以内		最新活動時期
17	屏風山・恵那山断層帯 および猿投山断層帯 (猿投-高浜断層帯)	7.7程度	ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	やや高い	4万年程度 約1.4万年頃
	(屏風山断層帯)	6.8程度	0.2~0.7%	0.4~1%	0.8~2%	やや高い	4千-1.2万年程度 特定できない
	(加木屋断層帯)	7.4程度	0.1%	0.2%	0.3%	やや高い	3万年程度 特定できない
	(恵那山-猿投山北断層帯)	7.7程度	ほぼ0~ 2%	ほぼ 0.001~3%	ほぼ 0.001~6%	やや高い	約7.2千-1.4万年 約7.6千-5.4千年前
18	濃尾断層帯 (濃尾断層帯主部/梅原断層帯)	7.7程度	ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	やや高い	約1.4-1.5万年 1891年濃尾地震
	(濃尾断層帯主部/根尾谷断層帯) (温見断層北西部)	7.3程度	ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	やや高い	約2.1-3.6千年 1891年濃尾地震
	(温見断層南東部)	6.8程度	ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	やや高い	約2.2-2.4千年 1891年濃尾地震
	(濃尾断層帯主部/三田洞断層帯) (揖斐川断層帯)	7.0程度	不明	不明	不明	やや高い	不明 不明
	(武庫川断層帯)	7.0程度	不明	不明	不明	やや高い	不明 不明
		7.1程度	不明	不明	不明	やや高い	特定できない 1-10世紀
		7.3程度	不明	不明	不明	やや高い	特定できない 不明
19	池田山断層	主要98活断層帯以外の活断層					
20	柳ヶ瀬-関が原断層帯	7.7程度	ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	やや高い	約2.3-2.7千年 17世紀頃
21	野坂-集福寺断層帯	7.3程度	ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	やや高い	約5.6-7.6千年 もしくはそれ以上
			もしくはそれ 以上	もしくはそれ 以上	もしくはそれ 以上		15-17世紀
22	湖北山地断層帯 (北西部)	7.2程度	ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	やや高い	約3-4千年 11-14世紀
	(南東部)	6.8程度	ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	やや高い	概ね7千年程度 15-17世紀
23	三方-花折断層帯 (三方断層帯)	7.2程度	ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	やや高い	約3.8-6.3千年 1662年の地震
	(花折断層帯中南部)	7.3程度	ほぼ0~ 0.6%	ほぼ0~ 1%	ほぼ0~ 2%	やや高い	4.2-6.5千年 2.8千年前-6世紀
24	琵琶湖西岸断層帯	7.8程度	0.09~9%	0.2~20%	0.3~30%	高い	約1.9-4.5千年 約2.8-2.4千年前



VI-10 琵琶湖西岸断層帯の活断層分布図



- 1 : 石庭地点 2 : 弘川地点 3 : 饗庭地点 4 : 針江付近 5 : 比良沖地点
 6 : 真野地点 7 : 衣川地点 8 : 比叡辻地点 A : 文献6

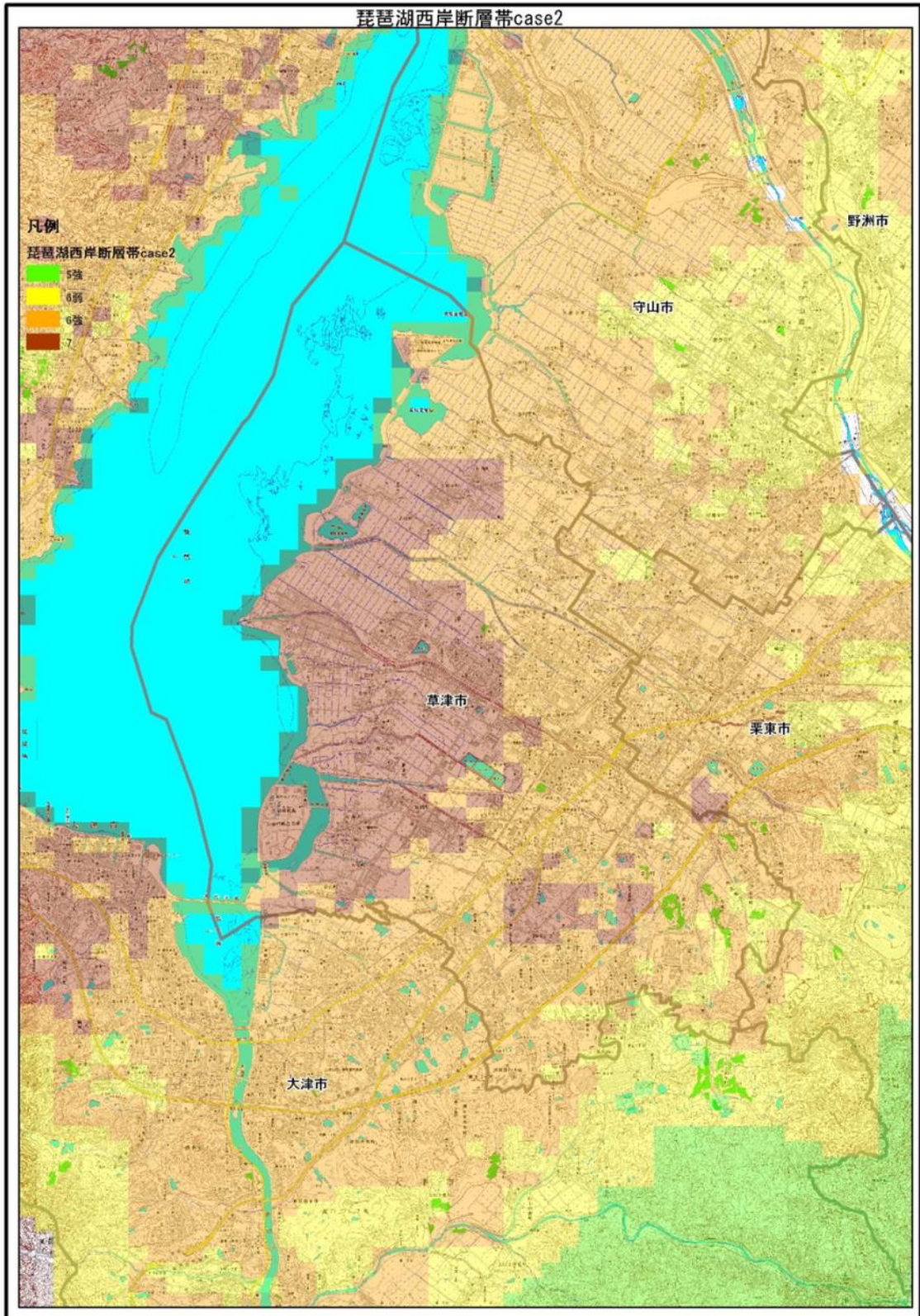
活断層の位置は文献4及び文献8に基づく。

● : 断層帯の北端と南端

基図は国土地理院発行数値地図200000「岐阜」、「名古屋」、「宮津」及び「京都及大阪」を使用。

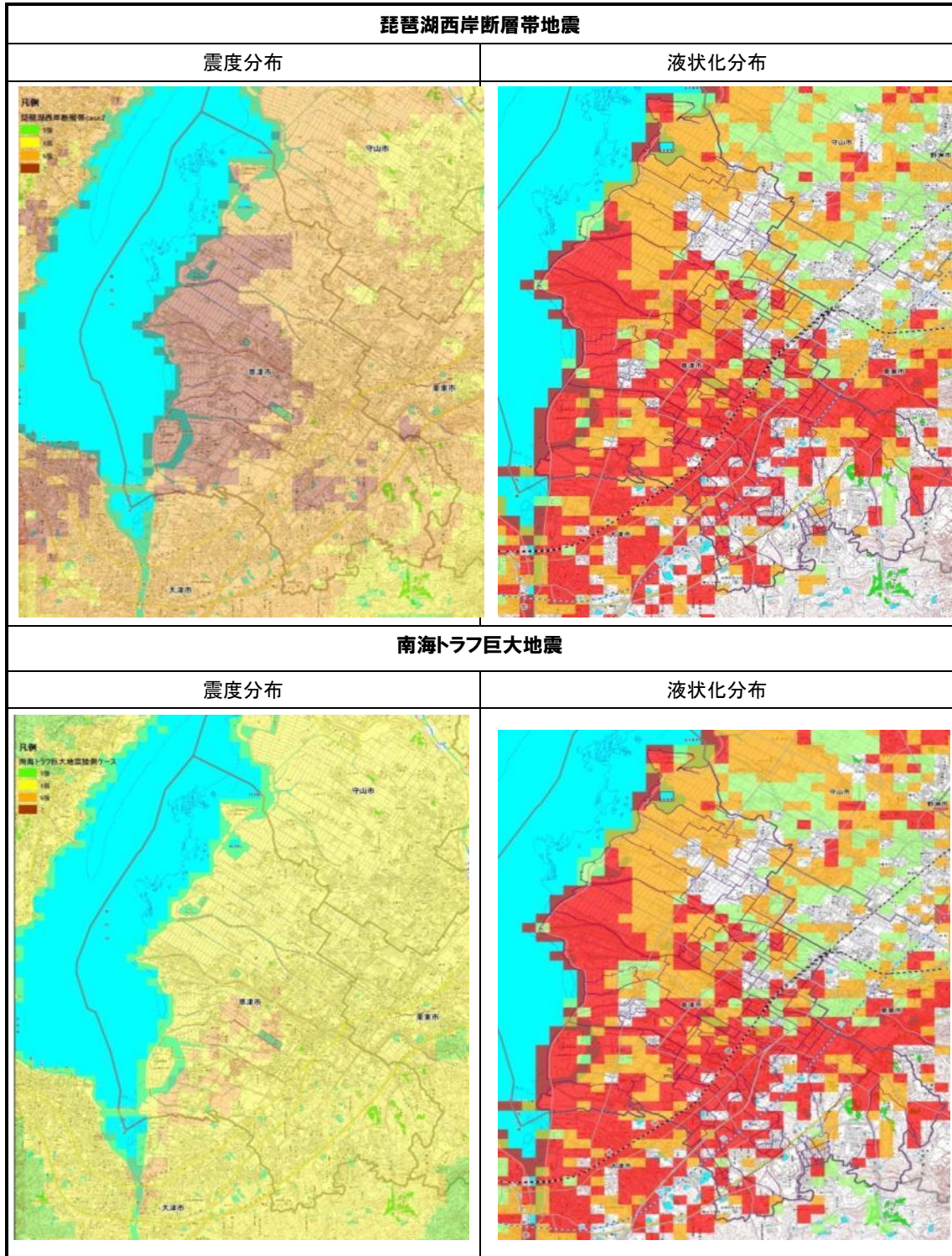
VI-11 草津市防災アセスメント調査結果抜粋（平成 27 年 1 月）

① 震度想定図



② 液状化指数評価図

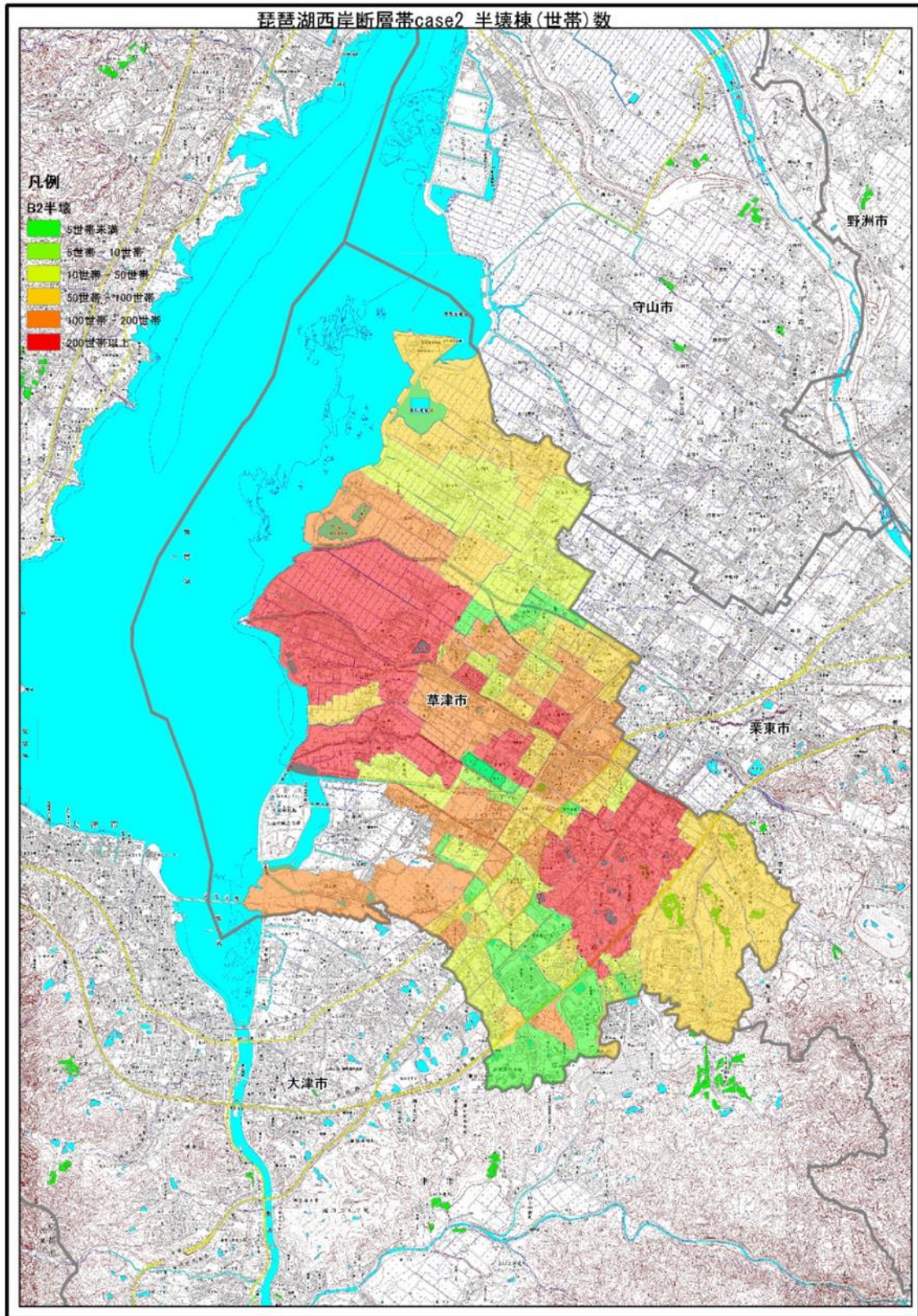
表 琵琶湖西岸断層帯及び南海トラフ巨大地震時の想定震度分布、液状化分布



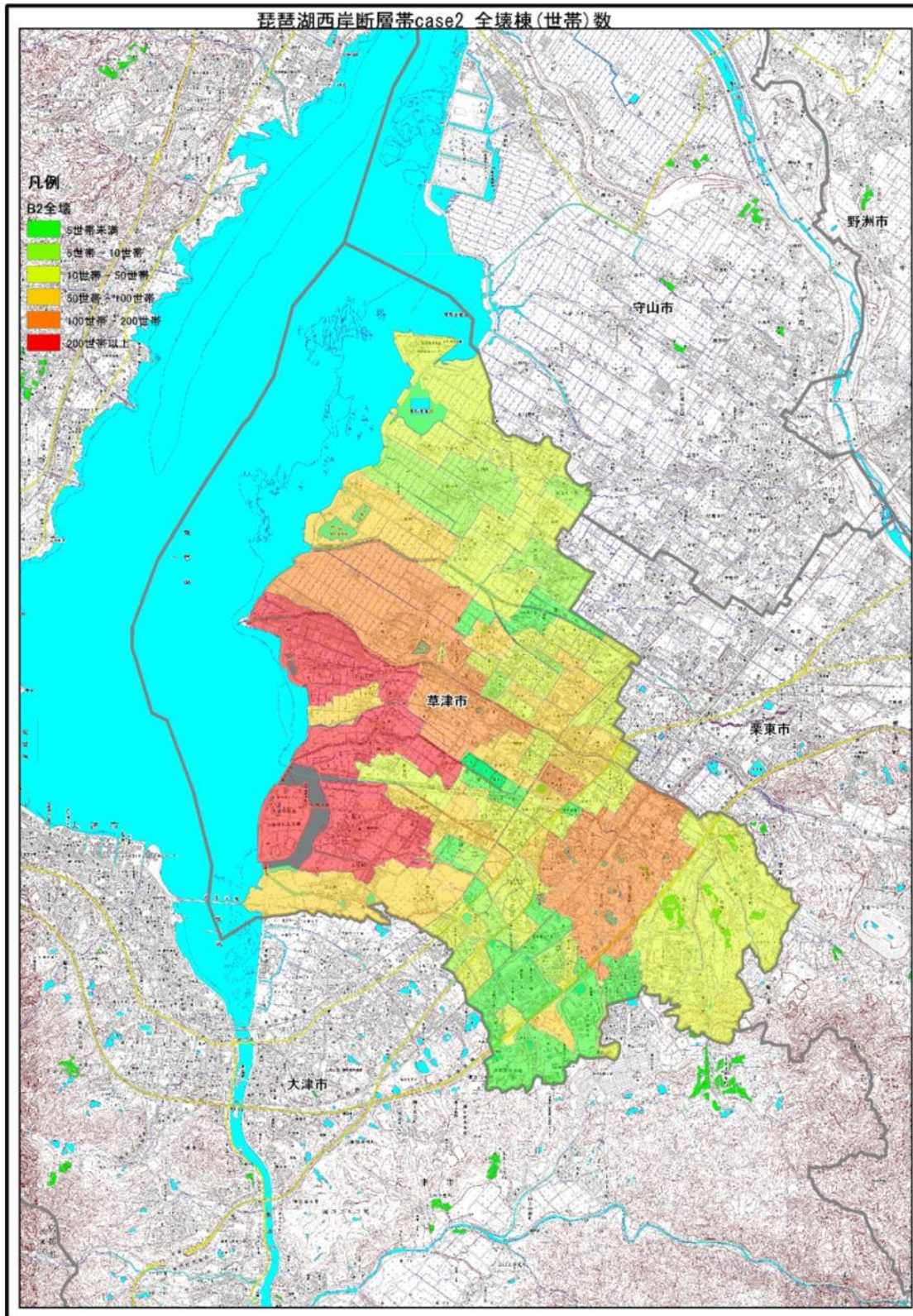
PL値による液状化危険度

- 液状化危険度はかなり低い PL=0
- 液状化危険度は低い $5 \geq PL > 0$
- 液状化危険度する可能性がある $15 \geq PL > 5$
- 液状化危険度は高い PL>15

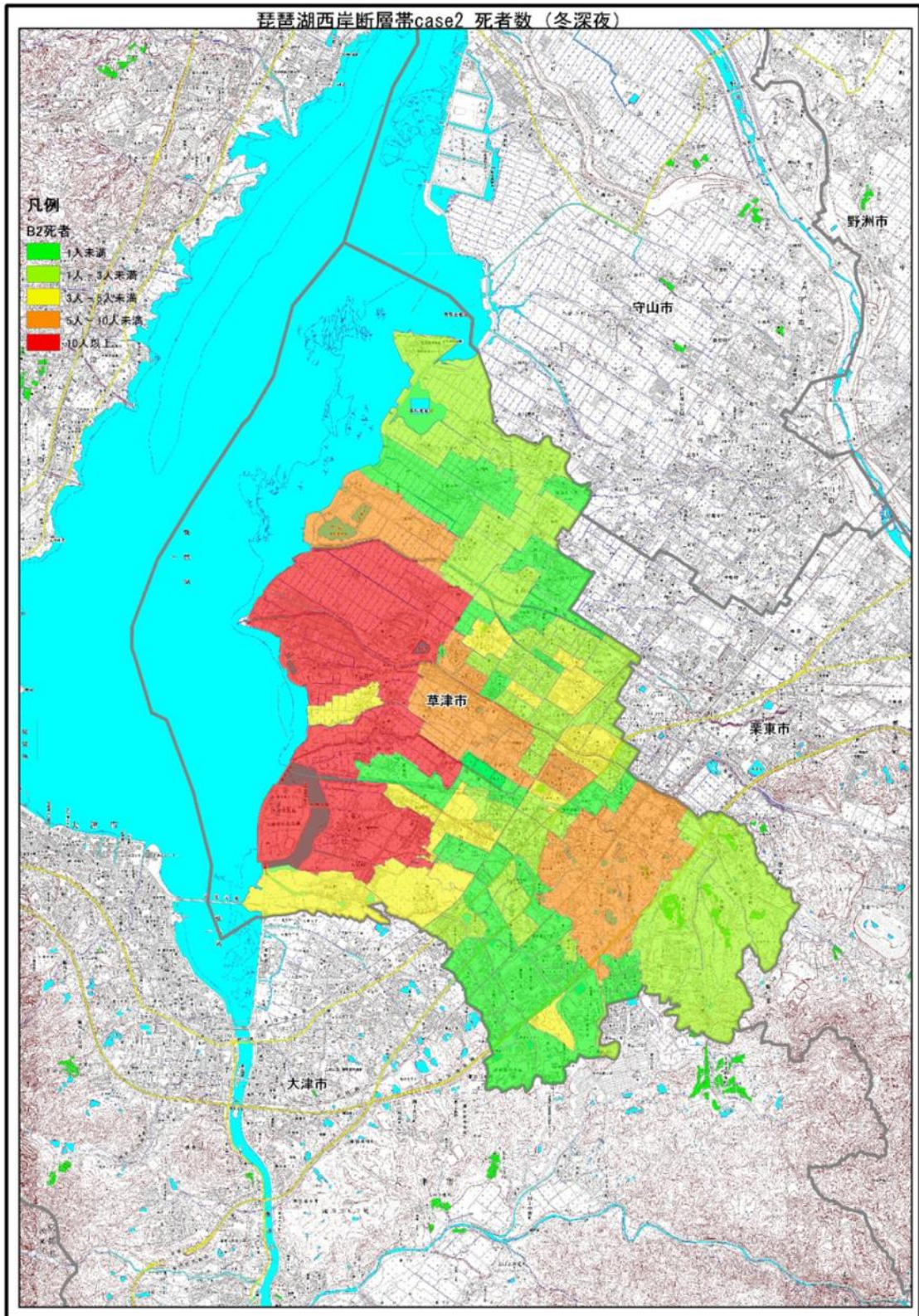
③ 建物被害想定図



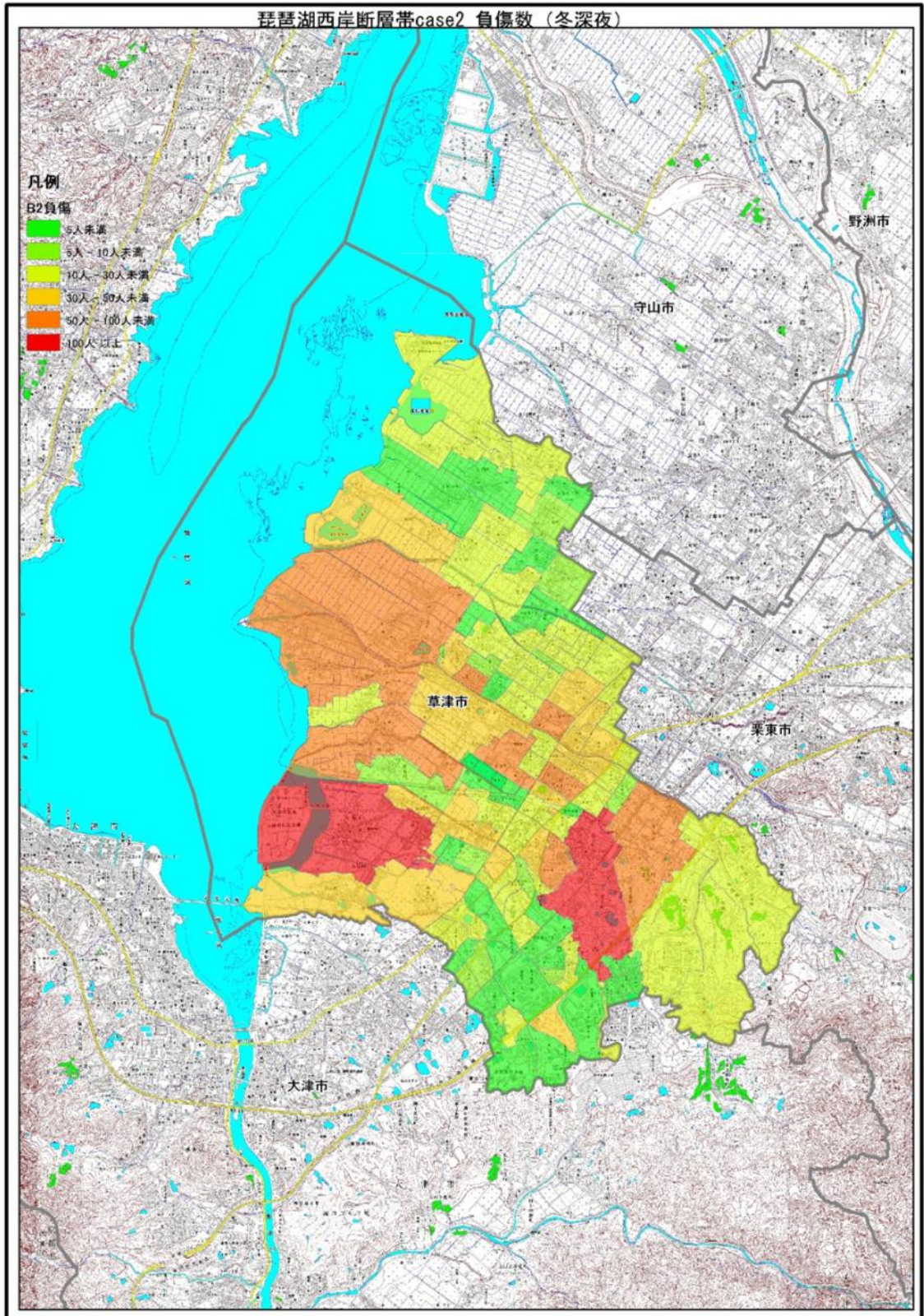
琵琶湖西岸断層帯case2 全壊棟(世帯)数



④ 人的被害想定図



琵琶湖西岸断層帯case2 負傷数 (冬深夜)



琵琶湖西岸断層帯case2 避難者数 (冬深夜 ピーク時)

